

## ◆ 巻頭言

## “ワーク・ライフ・バランス”という言葉の真意

## 勝間 和代

ワーク・ライフ・バランスには3つの誤解があると感じます。

1つ目の誤解は、内容への不理解です。英語であることが原因だと思いますが、いかに生活のために仕事を減らすか、というようなニュアンスで聞こえてしまうのです。2つ目は、ワーク・ライフ・バランスというと働く女性、特に結婚した女性や子どもを持つ女性の保護施策であるような印象があるということです。3つ目は、企業側にとってワーク・ライフ・バランスはコスト増加要因であり、メリットが少ないという考え方です。現場では、「トップはワーク・ライフ・バランスを標榜しているけれども、現場ではそんな甘いことは言っていない」という印象があるようです。

しかしこれらの誤解については、以下の方法で改善が可能かと考えます。1つ目の誤解を解くためには、ワーク・ライフ・ハーモニーとか、ワーク・ライフ・シンフォニーなどと言い換えてはどうでしょう。トレードオフではなく、互いに支え合う関係なのです。2つ目の誤解については、せっかく教育を受けた女性が社会により参加することで、女性側もその能力を生かす機会を得て、男性側もその分、助けてもらって働き過ぎの緩和になると言うことを理解する必要があります。また女性だけではなく、介護従事者や外国人などの施策でもあるのです。最後の誤解については、ワーク・ライフ・バランス施策が生産性改善に直結することに着目すべきでしょう。工業化が終わり情報化に突入した私たちの社会では、必ずしも労働時間の長さが成果につながらず、創造性の方が重視されます。それには十分な休息と充実した生活が必要なのです。

ワーク・ライフ・バランスという言葉の真意を一人でも多くの方が理解をすることを望みます。



## PROFILE

勝間 和代  
(かつま かずよ)

経済評論家(公認会計士)。早稲田大学ファイナンスMBA。慶應義塾大学在学中、当時最年少(19歳)で会計士補の資格を取得。外資系数社を経て独立。ウォール・ストリート・ジャーナルから、「世界の最も注目すべき女性50人」に選ばれる(2005)。エイボン女性大賞を史上最年少で受賞(2006)。3女の母。著書に『お金は銀行に預けるな』(光文社)など多数。